



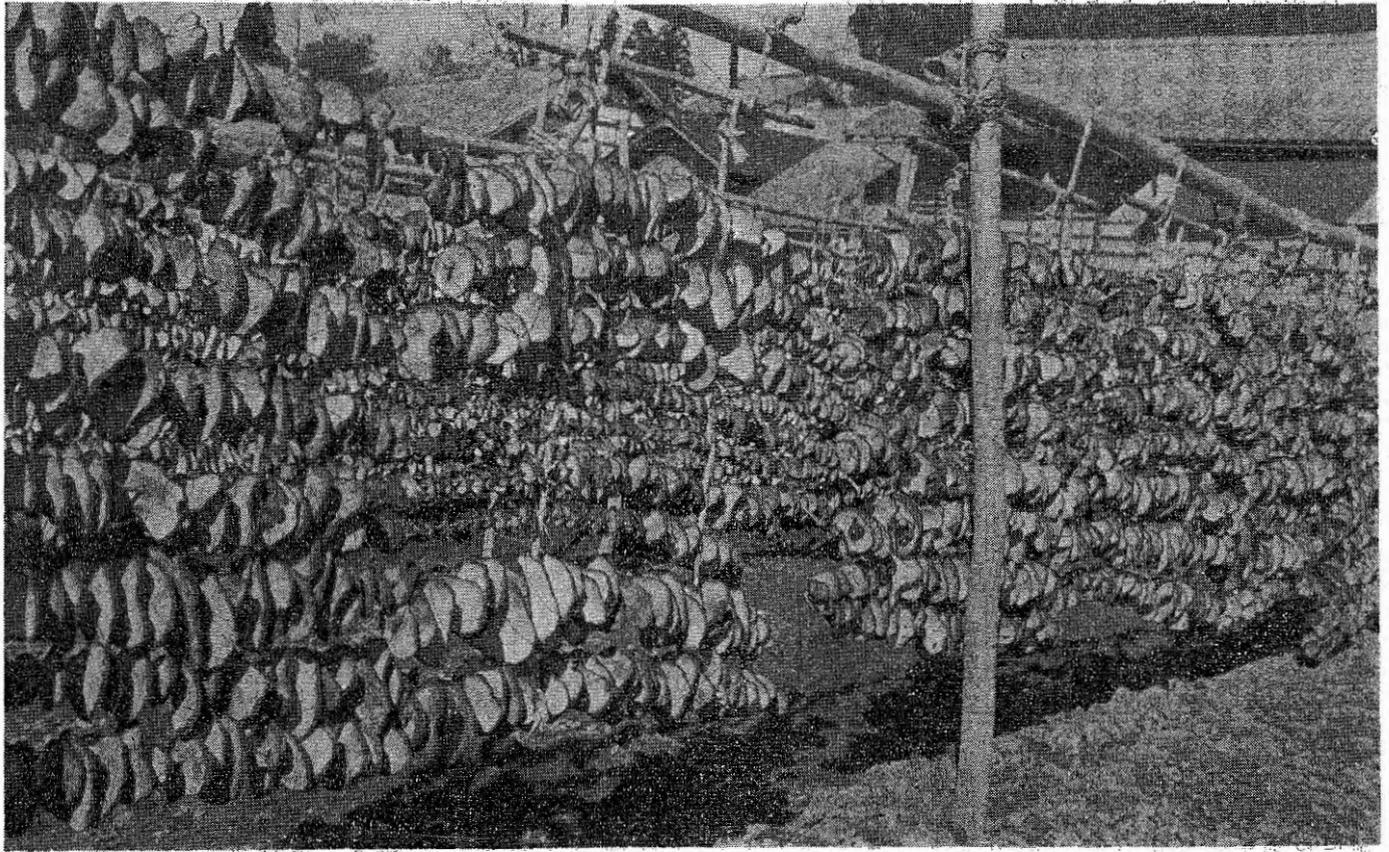
たまがわ 広報

村のようす (11月1日現在)

| | |
|-----|-----------|
| 世帯数 | 1,437戸 |
| 人口 | 8,023人 |
| 男 | 3,899人 |
| 女 | 4,124人 |
| 面積 | 46.65平方キロ |

たばこは地元の店で
買いましょう

編集と発行
福島県石川郡玉川村役場
丹内栄一
でんわ 川辺 1・39・124
印刷所 須賀川市 円谷印刷所



不順だつた天候によく耐えて
最も素朴な愛を
いちばん素直なかたちで伝えてくれた
——多くの実り——

初冬の陽のなかで
これら新しいものがまばゆくひかる

あめつちの恵みと共に
今日も又営々と
土と共に生きる
来る年のみのりに
ささやかな祈りをこめて

家庭の日で楽しい生活を

家庭は人間形成の基礎であり、健全な青少年を育成するには、まず良い家庭環境をつくる必要がある。このため家庭のなごやかな団らんを通して家族全員の意思の疎通と感情の融和をはかり、お互いに理解しあうことが大切である。こうしていつそう良い家庭をつくりあげるため県内のすべての家庭が自主的に毎月一回「家庭の日」を行ないなごやかな家庭環境つくり、福島県、各市町村、福島県青少年問題協議会、各市町村青少年問題協議会、福島県教育委員会、各市町村教育委員会が主催し新聞ラジオ、テレビ等によって普及推進を行なつて居ります。

開始の時期は昭和四十一年一月の第三日曜日(毎月第三日曜日)に行なうこととし各種の事情により第三日曜日に行なうことが困難な家庭では別に適当な日を定めて行ないましょう。

「家庭の日」に各家庭ではどんなことをすればよいかなどをみんなで都合をつけ全員顔をそろえなごやかな気持ちで一日をすごしましょう。

(2) 一日いっぱい家族全員で過ごすことができない家庭では食後などせめて一時間でも「家庭の日」の時間をもつようにします。

(3) この日には各家庭でつぎのようなことをとりあげたら良いのではないかと

① 家族全員で話し合う(話しあい)
親が子供たちの考えをきき子供は親からその考えなどを聞くことは親子が相互に理解し協力し合つて健康な家庭づくりをする土台のひとつです。このことは子供自身が親から認められ親が子供から信頼されることになりま

② 家族全員で楽しみあう(レクリエーション)
家族みんなで夕食を共にし、そのあと室内ゲームやのどじまん、それからおもしろい本を朗読することなども楽しいことでしょう。

③ 家族全員で運動する(スポーツ)
子供の年令その他の事情によつてもちがうことでしょうが魚つり、水泳ぎ、その他の一寸したゲームやピクニック等いろいろあるかと思ひます。

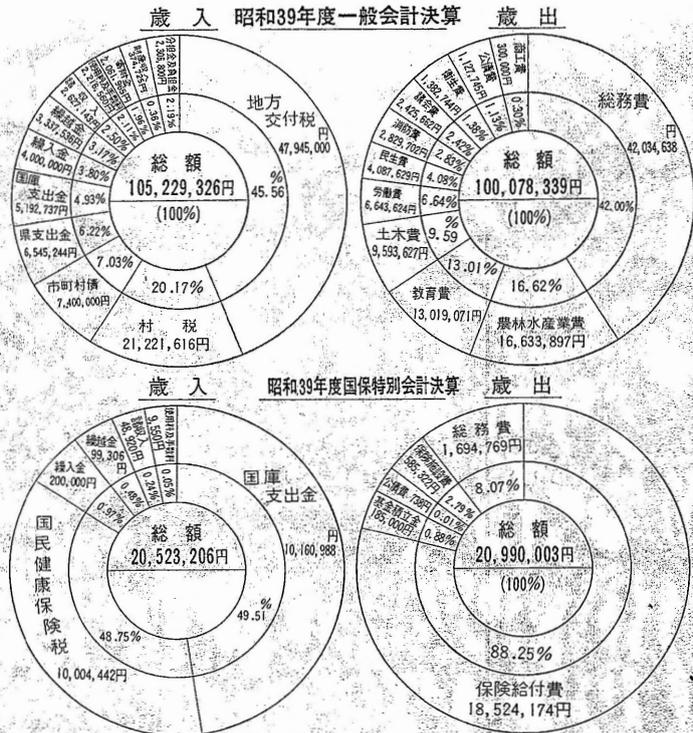
④ 家族全員で力を出しあう(作業)
大掃除、花だん作りなどみんなが力を出し合つて一つの仕事をしてみようではありませんか。こうして体験のなかで子供は両親の激励と承認によつて育つて行きます。

⑤ その他
家庭をはなれている家族に対して激励や近況の便りを出しましょう。

昭和39年度の決算のあらまし

一般会計=黒字 5,150,987円
国保会計=保険給付費の増等により
466,797円の赤字決算

昭和三十九年度において我が村の予算がどのように使われたか、その結果がまとまり、去る十月二十二日の第一回臨時村議会に於て認定されました。



バイクと耕うん機

バイク、耕うん機の数はどの位あるか

生活水準の向上と農業機械化の進展に伴ってバイクや耕うん機は過去数年間までの自転車や牛馬車がそうであったように、すでに私たちの家庭の一員になつてまいりました。

そこで、私たちの村にはバイク、耕うん機等は現在どの位あるかをまとめてみました。(別表一)これによりバイクは現在九三五台あり一戸当り約〇・七台、耕うん機は四三六台で、農家一戸当り約〇・四台の所有率となつております。

又、バイク、耕うん機は年々どのようにふえてきたかをみますと(別表二)、五年前の昭和三十六年に二二二台であつたバイクの数は現在九三五台で四・二倍、耕うん機は五九六台であつたのが四三六台となり七・四倍の増加率となつています。

バイク、耕うん機と農業所得

バイク、耕うん機は農業の必要経費となります。バイクの償却費その他経費は農業に使

用する割合により、他の農機具と同様に農業必要経費に算入されております。

又、耕うん機を所有して農耕をするときは耕うん機の償却費その他必要な経費は農業所得から特別経費として控除されます。

バイク、耕うん機にはナンバーをバイクや耕うん機を取得したときは十五日以内に村役場に申告してナンバーの交付を受け、そのナンバーを車体に取りつけて運行す

農 事 メ モ

◎こんにやく種芋の貯蔵のしかた

本県におけるこんにやくの貯蔵法は火棚、火室、土田等があるが、最近では火棚貯蔵から火室貯蔵に移行する傾向を示している。これらの貯蔵法は火煙によつて行はれ一般には長年のカンにたよつて管理されているのが大部分である。そのため年によつてはあたり、年によつてははぐつたと云つており、こんにやく玉は運玉であると云はれて来た。こんにやくをあたらせるには貯蔵中の管理が90%物を云うと云はれておりますのでその点について簡単に説明したい。

(1) 貯蔵中の種芋の腐敗

フザリウム菌(乾性腐敗病)の発病温度10°C~32°C 湿度90%以上の多湿によつて腐敗する。予防として日光直射約20分間乾燥約3~4日で死滅するので掘取直後実施する。

(2) 低温障害

主芽(頂芽)しょう芽(芽ぼう)減数→凍死。ゴム玉、シミ玉、活力低下予防として特に生芽が低温をうけ易いので5°C以下の寒気にあわせないこと。種芋の乾燥(10日~15日予備乾燥)に注意する。

(3) 種芋の休眠

休眠は15°C以下で行いそれ以上の温度では休玉となるので7°C~15°Cの間で貯蔵することが必要である。

(4) 種芋の老化

植付時にすでに伸び過ぎて発根した芋は老化したものである。休眠覚せい後は10°C~35°Cまで温度を上げるが植付1ヶ月前より催芽に移る。

(5) 貯蔵の実際

以上部分的に説明したがこれを総合すると掘取つた種芋はスカシ箱に入れ1個並べとし2~3日直射日光乾燥をしその後10日間位散光の入る室内や軒下で通風乾燥を図る。予備乾燥後は選別し貯蔵かごに横向きに積み入れる。2年生は3~4ヶ。3年生は2~3ヶならべる。貯蔵温度7°C~10°C湿度60~70%で20~30日間は換気を充分にし、その後は湿度80%で管理する。幼葉の形成期は温度に敏感なので変温せず3月下旬ごろから徐々に15°C~20°Cにあげて催芽させる。

◎田畑輪換の利点

最近我が村においてもポツポツ田畑輪換を始めた者も見うけられますが、田畑輪換を行うには用排水の便なことなどでこれを行うことのできる土地は制約されますが、将来構造改善等で土地改良を行つた場合特にこのことが重要視されますが、その利点について述べて見たい。

水田より畑に転換した場合

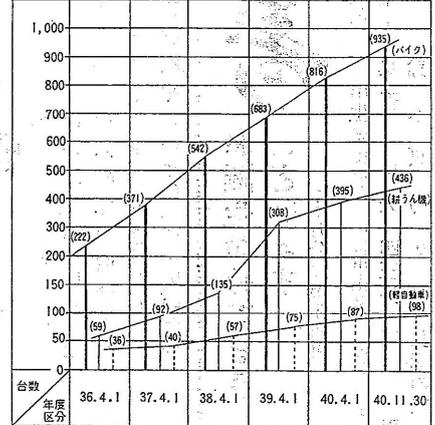
- (1) 水不足の心配がない
- (2) 冷害等の危険分散ができる。
- (3) 稲作より経済的に有利な作物が選定できる。
- (4) 水稲に必要な有効成分の吸収ができ肥料の節約ができる。
- (5) 水田の老朽化を防ぐ。
- (6) 水田の雑草、病虫害が減少し安定多収がえられる。
- (7) 乾田化が促進される。

以上のような有利な点があるが、一方ではまた漏水が過多と云うときは生産の不安定なときもあるが、年間労力の均等利用の点を考え又一方所得の増加を図る上にも皆様で検討を要すべきことと思はれます。田畑輪換は3年間継続し転換するのが、有利だとされております。

(別表1) バイク、耕うん機等の台数 (40.11.30現在)

| 種別部落別 | バイク | | | | 軽自動車 | | | 耕うん機 | 合計 | |
|-------|--------|--------|---------|-----|------|------|------|------|-----|-------|
| | 50cc以下 | 90ccまで | 125ccまで | 計 | 二輪 | 四輪乗用 | 四輪貨物 | | | |
| 川 辺 | 56 | 40 | 28 | 124 | 3 | 2 | 5 | 10 | 80 | 214 |
| 蒜 生 | 14 | 9 | 4 | 27 | 1 | | 3 | 4 | 10 | 41 |
| 小 高 | 52 | 49 | 29 | 130 | 8 | 2 | 12 | 22 | 52 | 204 |
| 中 | 24 | 21 | 18 | 63 | 6 | 2 | 10 | 18 | 33 | 114 |
| 岩 法 寺 | 42 | 13 | 7 | 62 | 2 | | 4 | 6 | 21 | 89 |
| 竜 崎 | 74 | 26 | 19 | 119 | 2 | | 3 | 5 | 51 | 175 |
| 南 須 釜 | 86 | 58 | 42 | 186 | 6 | 3 | 7 | 16 | 70 | 272 |
| 北 須 釜 | 45 | 38 | 23 | 106 | 5 | | 3 | 8 | 63 | 177 |
| 吉 須 | 16 | 22 | 7 | 45 | | 1 | 1 | 2 | 24 | 71 |
| 山 小 屋 | 9 | 7 | 10 | 26 | 1 | | 3 | 4 | 21 | 51 |
| 四辻新田 | 27 | 16 | 4 | 47 | 2 | | 1 | 3 | 11 | 61 |
| 計 | 445 | 299 | 191 | 935 | 36 | 10 | 52 | 98 | 436 | 1,469 |

(別表2) バイク、耕うん機等の増加



注目される「しいたけ栽培」

本年は山のきのこが天候の関係で出なかつ

たので、しいたけは予想のできなかった値段で売れましたが、それではしいたけの将来性についてはどうだろうか。最近山林の林相はきのこの発育に適しないものとなつて来て、年々の濫獲と相俟つて山のきのこは減少して行く。一方消費面では、生活水準の向上に伴つて増加して来たので、生産過剰による価格の暴落はないものと見られる。然し本年のような百瓦五〇円以上もすると言う現象は期待できないので、大量の財政投資は考えもので、要的である。

機をお買いになつたらすぐ役場に届けてナンバーをつけよう。

は原木の撰択によつて早くきのこを発生させること。品種を統一して産地名を消費者に知らしめることにあると思う。

